令和８年度　　第５学年　　授業改善推進プラン　　小平市立小平第二小学校

	課題（児童の実態，学習状況，指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン，具体的な手だて）
国語	・文学的文章を読む学習では、叙述に即して心情等を読み取ったり、文の構成や内容から要旨を読み取ったりすることが苦手で、要約することに苦手意識をもつ児童が多い。 ・調べた内容や文章から感じたことへ自分の考えを書いたりすることに個人差がある。また、目的に応じて必要な資料を正確に見付け、書き抜くことに課題がある。 ・自分の考えを主体的に話すこと、話の要点や意図を考えながら聞くことが不十分な児童も見られる。 ・漢字の学習に粘り強く取り組む児童が多いが、既習の漢字を日常的に適切に使うことができない児童も見られる。	・文学的文章を読む際には全文シートを用意して書き込みをさせることで、想像したことや考えたことへの根拠となる部分や文はどこなのかはっきりさせる。考えを伝える際、根拠となる部分が叙述のどこにあたるのかを伝えられるようにしていく。既習事項を生かし、要旨の読み取りや作者の考えの読み取りのポイントを意識して指導していく。 ・毎回の書く授業では、誰に何を伝えるために情報を集めるのか相手意識や目的意識を明確にし、文章構成を考えて書くことができるように指導する。問われていること、目的を的確に把握し、必要な部分を短く線を引くなど、具体的な指導をする。 ・日常的に、考えの交流をする時間を確保し、お互いの考えの良さを学びあうとともに、自分の考えに自信をもてるようにしていく。 ・積極的に辞典を使うことができるよう学習環境を整える。また、毎月１回、前学年までの漢字も復習する機会を設ける。作文指導の中で漢字を使うように声を掛けるとともに、使った漢字の字数をカウントするなどしながら日常的に漢字を使用する意識を高めていく。
社会	・社会科の学習意欲は高いが、社会的事象について興味や関心に差があり児童の二極化が見られる。 ・調べる活動については意欲的に取り組む児童もいるが、複数の資料を比較・関連し、そこから考え、まとめる力を身に付ける必要がある。 ・社会的事象について興味や関心をもっている児童も多いが、方位、大陸や海の名前等の基礎的事項の理解や、資料の読み取りなどの技能の面では習熟が不十分	・学習者用端末等の ICT 機器を活用することで、高い学習意欲を社会的事象についての興味や関心につなげられるようにする。 ・児童の生活や経験を踏まえ、身近な事象を取り上げて興味や関心をもたせるとともに、それらの事象が社会や国民生活に深く関係していることに気付かせる。また社会的事象に関わる問題に目を向けさせ、自分なりの考えをもたせるようにするとともに、話し合い活動の場を多く設ける。 ・資料の見方を丁寧に指導していくとともに、複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し、比較させたり、関連させたりして考えさせる。また資料から読み取れる事実とそこ

	な児童も見られ、差が大きい。	から考えられる事柄を分けて表現させる。
算数	・５展開の習熟別指導を行っている。 ・既習の基礎的な知識や技能が定着していない児童も一定数いる。 ・自分の考えを筋道立てて表現する力の個人差が大きい。	・個に応じた指導を心がけ、計算の基礎的な技能はドリル学習等で反復を通して習熟させる。また、学習の前には前時や既習事項の復習を適時取り入れ、本単元の学習につなげていく。 ・「言葉、式、図、数直線」などを活用させることで、自力で主体的に問題解決できる力を高めるとともに、筋道を立てて説明できる力を伸ばす。
理科	・生物等の自然事象への関心が高く、実験や観察の際に意欲的に取り組む児童が多い。 ・「変える条件」「変えない条件」を考え、条件制御をして計画を立てることに個人差がある。 ・結果に対して、「結果から考えられること」や「仮説と比べてどうだったか」等の考察を書くことが難しい児童も一定数いる。	・実験計画を立案する際、学習者用端末を活用しながら、「変える条件」と「変えない条件」を表に分けることで、考えを整理して計画を立てることができるようにする。 ・「より妥当な考察」をすることができるよう、予想の段階で様々な考えを共有する。そして、結果からどのようなことが分かるのかを考えたり、他の班の実験結果を共有する時間を設けたりすることができるようにする。 ・考察を書く際、定型文や書き始めを示すことで、全ての児童が考えをもてるように工夫する。
体育	・体を動かしたり、友達と協力してゲームに取り組んだりすることに意欲的な児童が多い。友達にアドバイスができる児童も複数いる。 ・一部、規律面において学年相応の態度が身に付いていない児童がいる。	・集団での関わりを大切にして、互いに声を掛け合い、達成感を共有できる雰囲気を大切に指導していく。 ・まず今もっている力で主運動に取り組むことで自分の課題を意識できるようにする。それを解決するために練習の場を工夫したり、練習を選ばせたりする。ICT も活用しながら課題に気付けるようにする。スモールステップで技能を高めていく。
家庭	・真面目に前向きに取り組むことができる児童が多い・興味関心が高い一方、家庭での実践経験が不足している傾向もみられる。 ・安全に留意して慎重に実習を行うことができたが、裁縫の技能に個人差が大きく、糸と針の扱いに不安がある児童もいる。	・基礎的な技能の定着が図れるように、細かく見取り、個別に指導する必要がある児童は重点的に指導できるようにする。 ・学校での体験学習で終わらせるのではなく、自分の生活にどのように生かしていくかを考えさせ、家庭での継続的な実践につなげていく。
道徳	・道徳的価値について、その大切さを授業の中でしっかりと考えることができる。しかし、それを実生活の中で実践していくことができる児童は少ない。	・道徳授業を学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが一層生かされるように効果的に主題を設定する。 ・少人数グループで自分の考えを伝え合う活動を設定し、多様な

	・自分の考えを書くことは多くの児童ができるが、それを友達に伝えることには個人差がある。 ・日常生活では、自分の気持ちを優先してしまい、相手の気持ちを考えて思いやって行動することに課題がある。	意見があることを認める風土づくりを行う。自分の考えを伝える力やお互いの考えを尊重する態度を高めたい。 ・一人一人の思いを受け止めつつ、お互いの気持ちを伝えたり考えあったりして共感、理解できるようにしていく。
外国語	・英語に興味をもっている児童は多い。しかし、授業の中で学んだことを次の授業や日常生活に生かそうとする児童は少ない。 ・初めて習う英単語に対して苦手意識をもつ児童がいる。	・授業で学んだ外国語表現を日常生活でも活用できるよう、意識付けを図る。 ・初めて習う英単語や英会話に対して積極的に発言できる雰囲気をつくっていく。